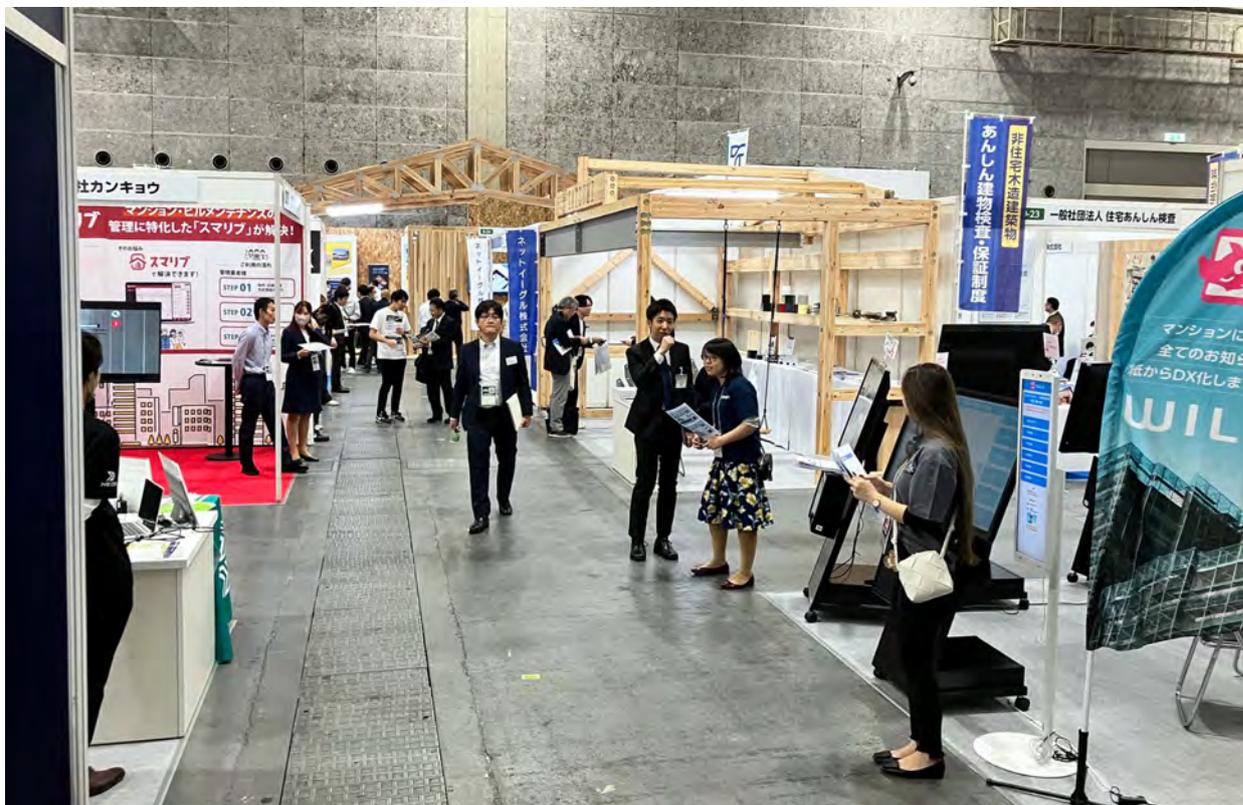


2025年に転機を迎える木造業界の未来を探る 非住宅木造建築フェア



11月1日から2日間にわたりインテックス大阪で開催された非住宅木造建築フェア2023

11月1日から2日までの2日間にわたり、インテックス大阪で非住宅木造建築フェア2023が開催された。この展示会は、木材・プレカット・構造計算・建築工法等、木造に関する製品・サービスを一堂に集めた、非住宅の「木質・木造化」に特化した専門展となっている。東京ビッグサイトで開催された前回と異なり、今回は設計・構造計算等の関連ツールや営業支援システム、CLTをはじめとした新建材などが多数出展されていた。

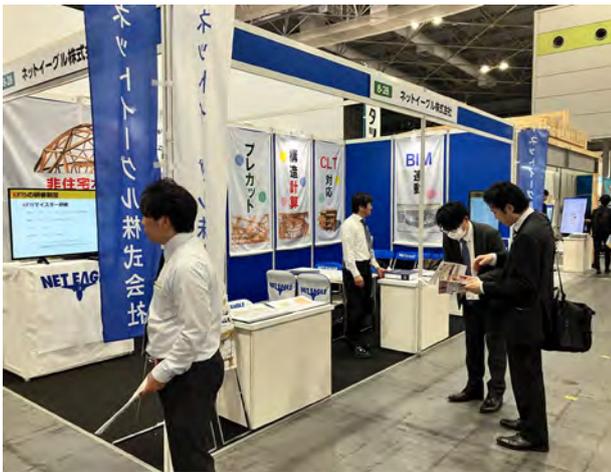
ソフト開発の目線は2025年の法改正

木造プレカットCADの大手であるネットイーグル(株)のブースでは、非住宅木造プレカットCAD「XF15」と2×4プレカットCAD

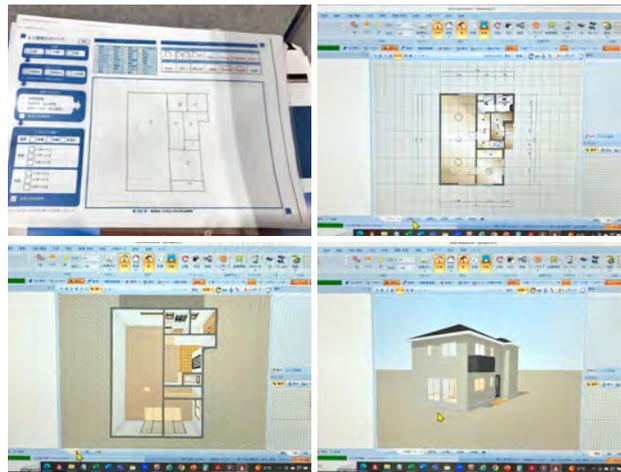
「XF24」を中心に「CLT-CAD」や「BIM連動」、「構造計算システム」などの連携システムについて大型モニターでデモ動画を展示した。

木造を含めた非住宅物件の施工を主導するゼネコンではBIMの使用が必須となっている。そこで、同社は業界初となる「Revitインターフェイス」を開発し、これを介することで自社のCADソフトとのBIM連携を実現。これまでBIMに渡すことができなかった木造躯体のCADデータや伏図・断面図などの設計情報もBIMで一元管理できるようになった。

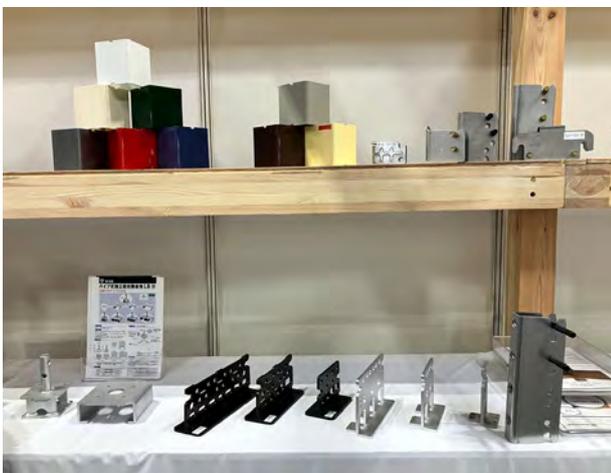
今回、同社のブースでは80社以上の来場者を集め、その中の半数以上が、これから非住宅木造市場への新規参入を狙う設計事務所やゼネコンなど完全な新規客となっており、木造プレカットCADのBIM連動に対する注目度を伺



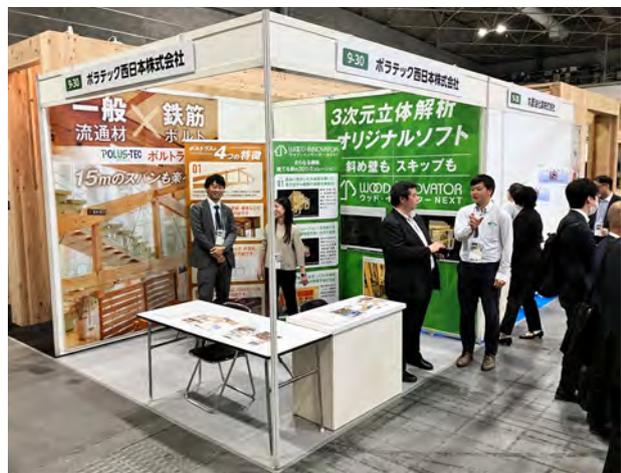
多くの新規客が訪れたネットイーグル(株)のブース



ALTA Revolutionはパース図をAIで自動生成



(株)タツミでは非住宅向けの製品を展示



ボラテック西日本(株)の展示ブース

い知ることができた。

建築事業関連のソフトウェア開発・販売を手がける(株)コンピュータシステム研究所のブースでは、プレゼン・見積・設計・伏図・構造計算までをカバーする住宅営業戦略システム「ALTA Revolution」を実演デモで紹介。今回は手描き図をAIが画像認識することで自動でパース図や見積書、図面などが生成されるプレゼンツールを実演で紹介。また、2025年の建築基準法改正を見据えて、木造建築物構造計算ソフト「KIZUKURI」も実演デモで紹介。こちらは、軸組工法版（長期優良住宅対応）と枠組壁工法版（告示第1540、1541号準拠）の一般住宅に特化しており、構造計算はもちろん構造計算書や申請書類の出力に対応しており、作業負担増を大幅に軽減することができる。

非住宅木造の要となる建材や工法

木造用建築金物の大手である(株)タツミは、軽量H形鋼梁と木材を接合させた新工法「TN-WOLSH Beam（ティーエヌウォルシュビーム）」の金物を展示したほか、多様な柱断面に対応可能な柱脚金物「パイプ式独立低柱脚金物LB」、独立柱の柱脚部に使用する装飾金物「筒型装飾金物 Deco-tube」の新色を紹介した。

ボラテック西日本(株)では、一般流通材と鉄筋ボルトを使用した引張材を組み合わせる「ボルトラス」のパネルを展示。また、独自開発した3次元立体解析オリジナルソフト「ウッド・イノベーター NEXT」の紹介も行った。

愛媛県産材製品市場開拓協議会では、同県のブランド材である「媛すぎ・媛ひのき」の



愛媛県産材製品市場開拓協議会は県産のブランド材をPR



(一社) 高知県木材協会は「高知モデル」の模型を展示



(株)三菱地所住宅加工センター (左)



(株)三井ホーム (右) は非住宅木造に関わる独自技術を多数展示

PRブースを展開。これらのブランド材によるCLTパネルで建てられたドームハウスの模型や建設現場の動画、ブランド材を使用した木造トラス「媛トラス」などを紹介した。

(一社) 高知県木材協会では、県産のヒノキやスギの特徴を活かし、誰でも簡単に建てられるパッケージとした都市木造「高知モデル」の模型を紹介したほか、同じく県産材を使用した組子体力壁などの展示を行った。

大手が展開する独自の非住宅木造

(株)三菱地所住宅加工センターは、2×4の技術を用いた中層木造建築物や混構造建築物の事例をメインに、三菱地所グループが手がけてきた非住宅物件の事例も紹介。こうした多階層の木造

建築物において300kN以上の引抜力に対応し耐力壁の転倒を防止する「アンカータイダウンシステム」や、コンクリートスラブを型枠を兼ねる木材で被覆した木質床スラブ、壁パネルを石膏ボードと突板で被覆して木質の意匠を維持しつつ1時間耐火(協会認定)を実現させた耐力壁、窯業系サイディングの施工を高さ31mまで対応可能とする表面ビス補強工法やロング通気金具工法などの紹介を行った。

三井ホーム(株)は、住宅性能評価書を取得した同社の木造マンション「モクシオン」や木質トラス「コネクトラス」、「サミットHR工法」と「ツーバイフォー工法」を組み合わせた「M-HR工法」の建築プランを展示したほか、同社の木構造研究所がこれまでの取組んできた非住宅分野における建築事例を紹介した。